⑱羽柴秀吉書状

［［天正一一年（一五八三）］　多賀新左衛門（常則）宛］

昨日七日御状至長浜
到来、令拝見候、此表
事取出二ツ相拵、
人数丈夫ニ残置、安土へ
打入候之処、留守ならハ
可参と柴田罷出、此方
取出之惣構へ働候処、
鉄砲をそろへはなし
にて候へハ、手負数
多出かし失手、元之
高山へ北上、于今在之
事ニ候、然ニ秀吉重而
出馬申付候条、於時宜者
可御心安候、将々峯城
儀　殿様被寄
御馬付而、弥無御由
断之旨尤候、猶近々可
申承候、恐々謹言、

羽筑
卯月八日　秀吉（花押）

多新様

御返報

読み

昨日七日、御状長浜に至りて
到来、拝見せしめ候、此表の
事取出二つ相拵え、
人数丈夫に残し置き、安土へ
打ち入り候の処、留守ならば
参るべしと柴田罷り出、此方
取出の惣構へ働き候処、
鉄砲をそろへはなし
にて候へば、手負数
多出かし失手、元の
高山へ北上し、今にこれ在る
事に候、然に秀吉重ねて
出馬申し付け候条、時宜においては
御心安くべく候、将々峯城
儀　殿様御馬を寄せられるに付きて、弥御由
断なきの旨尤に候、猶近々申し承るべく候、恐々謹言

羽筑
卯月八日　秀吉（花押）

多新（多賀新左衛門）様
御返報

内容

昨日七日、長浜についた時、あなたからの手紙が届き、拝見しました。こちらの状勢について取出（とりで・砦）を二つ築き軍勢をしっかり残し置いた上で、安土へ討ち入ったところ、留守ならば参戦すると柴田が出兵し、こちらの砦の総構えに攻撃を仕掛けてきたところ、鉄砲が揃っておらなかったので、負傷者が多く出てしまい方策を失い、元いた高山へ北上し、今ここにいることになった。であるので、秀吉（わたくし）が再び出馬を要請することがあるでしょうから、現在のところこちらのことは安心してく

ださい。一方、峯城のことは、殿様（織田信雄）が出馬されるということで、今後も油断のないようにすることが肝心です。また近々申し承ります。恐々謹言

羽筑

卯月八日　秀吉（花押）

多賀新左衛門尉常則様

御返報